

株式には様々な分類方法があり、時価総額や流動性の観点では、大型・中型・小型に分類されます。その中でも、長期にわたり相対的に良好なパフォーマンスを示してきた(下図)、小型株式の投資における魅力や留意点などについてご紹介します。

成長段階の企業が多く、高成長が期待される

小型株式とは、時価総額が小さく、流動性が低い銘柄のことをいいますが、その投資魅力は、主に2点あると考えられます。

まず、①新興企業などを中心に、成長段階の企業が多いことから、小型株式は相対的に成長性が高いと考えられます。実際に、過去のEPS(1株当たり利益)の推移をみると、大型株式に比べて高い成長を遂げてきたことが確認できます(右図)。また、一般に、②小型株式を調査対象とするアナリストの数が相対的に少ないことなどから見落とされ、株価にその成長性が十分織り込まれていない銘柄が多いと考えられます。そうした中、まだ多くの投資家に注目されていないものの、株価上昇の可能性が大きい小型株式に投資できれば、将来、株価の大きな値上がりを享受できる可能性があります。

大型株式の併せ持ちのパーツとしてのニーズも

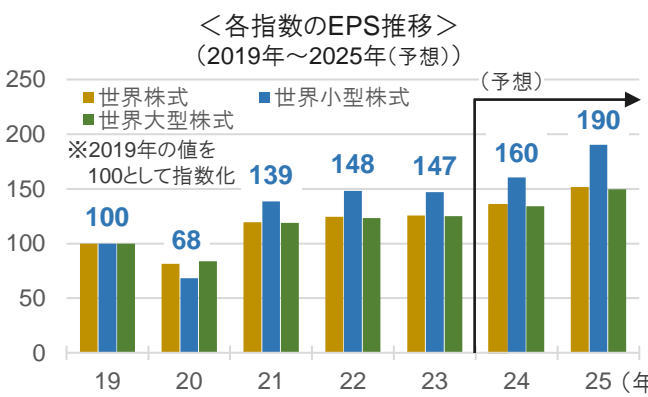
大型株式を保有の投資家にとって、小型株式には、併せ持ちのパーツとしてのニーズもあると考えられます。大型株式に小型株式を組み合わせ

運用した場合、過去のシミュレーションでは運用効率(リターン/リスク)の改善が確認されました(下図)。

価格変動の大きさなどには注意が必要

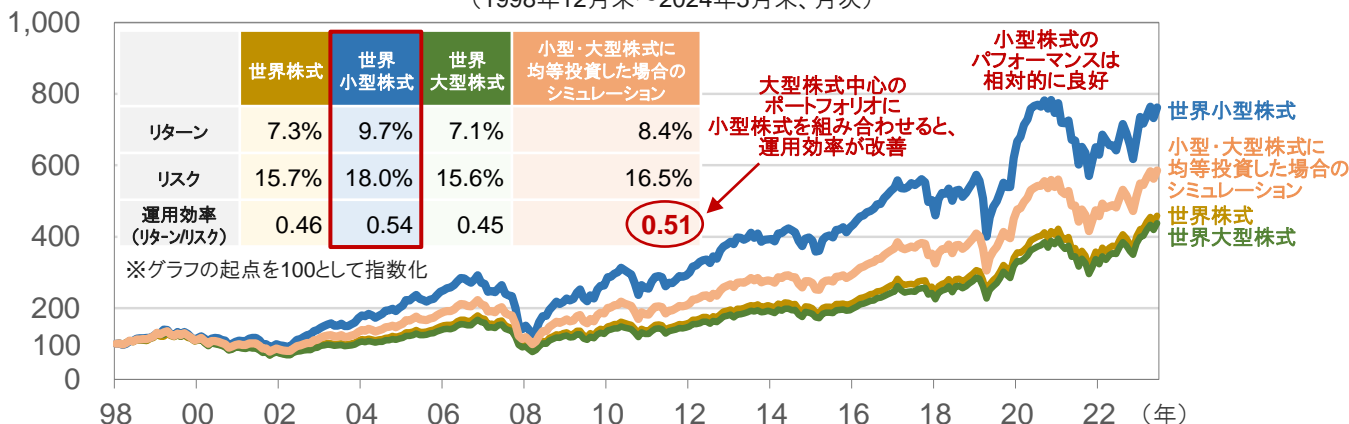
一方、小型株式は、時価総額が小さく、流動性が低いことなどから価格変動が大きくなる傾向があるほか、情報量が少ないことから、投資における判断が難しいなどの留意点もあります。こうした点などを考慮し、小型株投資においては、価格変動リスクを抑制するために投資先の分散を行なうほか、銘柄選別をプロに任せるなどの投資の工夫も重要と考えられます。

小型株式は相対的に利益成長期待が高い



小型株式は相対的にリスクが大きいものの、長期にわたり良好なパフォーマンスを誇る

＜各指数の推移およびリターンやリスク＞
(1998年12月末～2024年5月末、月次)



※ 上記では、右上で使用した各指数の税引後配当込みを使用。
※ 小型・大型株式に均等投資した場合のシミュレーション: 上記の世界小型株式と世界大型株式に1/2ずつ均等投資した場合のシミュレーションの結果
※ リターンは月次騰落率の平均、リスクは月次騰落率の標準偏差をそれぞれ年率換算
※ 当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

● 上記は過去のものおよび予想、ならびにシミュレーションの結果であり、将来を約束するものではありません。信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

<ご留意いただきたい点>

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込むなどのリスクがあります。■リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行本支店等の各商品の説明書等を必ずご覧ください。



株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会